



TITLE:

白浜町へ初めて漂着したアカボウクジラ(アカボウクジラ科)の記録

AUTHOR(S):

久保田, 信; 山口, 一夫; 岸田, 拓士

CITATION:

久保田, 信 ...[et al]. 白浜町へ初めて漂着したアカボウクジラ(アカボウクジラ科)の記録. 南紀生物 2007, 49(1): 67-68

ISSUE DATE:

2007-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/188314>

RIGHT:

© 南紀生物同好会

白浜町へ初めて漂着したアカボウクジラ（アカボウクジラ科）の記録

久保田 信*・山口 一夫**・岸田 拓士*

Shin KUBOTA, Kazuo YAMAGUCHI and Takushi KISHIDA : First records of *Ziphius cavirostris* (Dphinidae)
stranded in Shirahama town, Wakayama Prefecture, Japan

はじめに

2006年11月13日にすさみ町の磯に死亡漂着した1個体のクジラがDNA鑑定の結果、この海域には珍しいアカボウクジラ *Ziphius cavirostris* CUVIER, 1823と同定されたが（日本鯨類研究所調査部、私信）、その記録以前に漂着現場に近い2箇所にこの個体と推察されるクジラが漂着を繰り返していた記録を得たので、これらの記録と最終漂着時の現場記録も含めて報告する。

3つの漂着記録

1. 白浜町日置の志原海岸へ生きたまま漂着

2006年10月29日午後1時頃、白浜町日置の志原海岸道の駅近くの波打ち際で漂っているアカボウクジラ1個体を、すさみ町の東原ルシアナ氏や和田 修氏が撮影し、頭部や模様を含む体色や鰭の形状などが記録された（図1, 2）。その個体には気の付くような外傷はなかった。

吉田 仁氏によると、その個体は波にもまれ、長い砂浜にただ1個だけあるテトラポットに吻を打ち当てられたり、砂浜に横倒しになったりして弱った状態だったが、尾鰭を動かすなど、生きていた。吉田 仁氏と松本嘉平氏ら地元住民3人が海に入って押し返すと、沖へ向かって背鰭を出した状態で遊泳し、やがて左方へ曲がり、岩場に近い地点（水深数十m）で姿が見えなくなった。

2. すさみ町口和深に生きたまま漂着

2006年11月10日、1と同じ個体と推察されるクジラが、直線距離で約10 km離れたすさみ町口和深と深崎の磯で死亡した例が下谷哲也氏により目撃された。そのクジラは沖から現場の磯につこんで来て激突し、海中に血を流し横たわった。2日後に流れ去ったが、画像記録はない。

3. すさみ町周参見へ死亡漂着

2006年11月13日、すさみ町周参見のホテル（シーパレス）の真下の海岸にクジラが死亡漂着し、翌日14日にホテルから紀伊民報への連絡で著者の一人の山口が同日午後1時頃に町職員とともに岩場に挟まるように浮かぶクジラを確認した。山口による個体全体と各部位の撮影画像が、財団法人日本鯨類研究所、森 拓也館長（すさみ町立エビとカニの水族館）、著者らの久保田と岸田に送付され、アカボウクジラの一つと同定された。

久保田は11月15日早朝の下潮時にその個体の各体部位の形状を撮影し、渡米中の岸田と連絡をとり、ペニスの外翻より雄個体であることを確認した。本個体は腐敗が進行し、腐臭、発生したガスのため体全体の膨張、流血、背鰭や吻の傷み、体の背面表皮の剥離が見られた（図3, 4）。吻の先に突き出た歯は見当たらなかった。

同日15日に、森 拓也氏はこの個体の全長を6.3mと計測し、DNA鑑定用の肉片、鰭、下顎などを採集し日本鯨類研究所に送付した結果、アカボウクジラ *Ziphius cavirostris* と判明し、ストランディングデータベースに登録された（番号O-2013）。

以上の3つの漂着記録は、さまざまな状況から判断して、同一個体の連続した漂着記録として取り扱った。記録1の通り、弱りながらも自力で遊泳し、その後は南へと流れに逆らって移動したが、記録2以降に死亡し、記録3にあるように北へ運ばれ海岸に死亡漂着したと推察される。

紀伊半島におけるアカボウクジラの漂着記録としては、1980年以降には串本町潮岬で1985年2月4日に漂着のただ1個体の記録（国立科学博物館海棲哺乳類ストランディングデータベース <http://svrsh1.kahaku.go.jp/indexJ.html>; 岸田ほか, 2005）があり、白浜町への漂着（岸田ほか, 2003, 2004, 2005, 2006; 久保田ほか, 2006）は今回が初記録である。

* 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町459 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所
〒649-2211 Shirahama 459, Nishimuro, Wakayama, Japan
Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and Research Center, Kyoto University
e-mail: shkubota@medusanpolyp.mbox.media.kyoto-u.ac.jp

** 〒646-8660 和歌山県田辺市秋津町100 紀伊民報

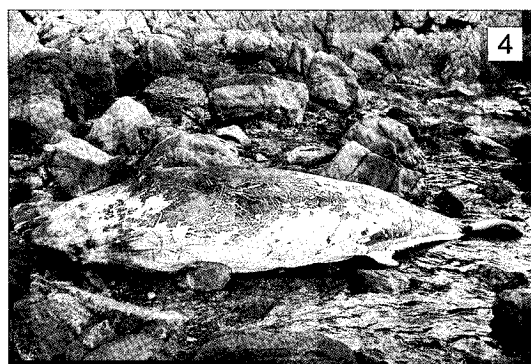
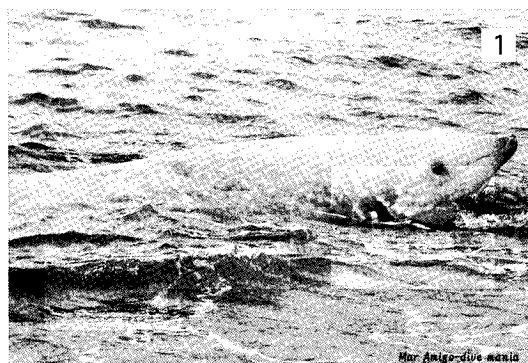


図1, 2 2006年10月29日に白浜町日置の志原海岸道の駅近くの砂浜海岸へ生きたまま漂着したアカボウクジラ (東原ルシアナ氏撮影)。

Fig. 1, 2. Live *Ziphius cavirostris* stranded on sandy beach near Michi-no-eki, Shihara-kaigan, Hiki, Shirahama town, Wakayama Prefecture, Japan, on October 29, 2006 (photo by Ms Ruciana HIGASHIHARA on that day)

図3, 4 2006年11月13日にすさみ町周参見のホテルの真下の海岸に死亡漂着したアカボウクジラの雄 (2006年11月15日久保田 信撮影)。

Fig. 3, 4. Dead male *Ziphius cavirostris* stranded on the seashore just in front of a hotel in Susami, Susami town, Wakayama Prefecture, Japan, on November 13, 2006 (photo by Shin KUBOTA on Nov. 15, 2006)

謝 辞

貴重な情報や画像を下さったすさみ町の東原ルシアナ氏, 松本嘉平氏, 下谷哲也氏, 吉田 仁氏, 和田 修氏, DNA鑑定結果をご教示下さった財団法人日本鯨類研究所調査部の石川 創氏に深謝致します。

引 用 文 献

岸田拓士・森阪匡通・久保田 信・天野雅男. 2003: 和歌山県白浜町番所崎の南浜にて発見されたハンドウイルカ *Tursiops truncatus*. 漂着物学会誌, 1, 25-27.
———・久保田 信・小林亜玲・田名瀬英朋. 2004:

和歌山県白浜町番所崎先端の浜に漂着したコマッコウ科鯨類について. 漂着物学会誌, 2, 33-34.

———・久保田 信. 2005: 紀伊半島に迷入・漂着する鯨類の特徴—紀伊半島の東海岸と西海岸を比較して—. 南紀生物, 47 (1), 67-68.

———・田名瀬英朋・久保田 信. 2006: 和歌山県白浜町椿の海岸に漂着したスジイルカ *Stenella coeruleoalba*. 南紀生物, 48 (1), 30.

久保田 信・山口一夫・岸田拓士, 2006: 和歌山県田辺湾に迷入したシワハイルカ (マイルカ科) と推定されるイルカの記録. くろしお, (25), 19-20.